

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第35週[8月30日～9月5日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
 E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 高知県に日本脳炎ウイルス感染の注意報発令

8月27日に採血したブタのHI抗体保有率が50%以上となり、9月3日注意報が発令された。蚊(コガタアカイエカ)に刺されないよう注意し、十分な栄養、睡眠をとるよう心がけること。高知県では、毎年注意報が発令されているが、患者は平成14年以降、18、21年に各1例の報告がある。

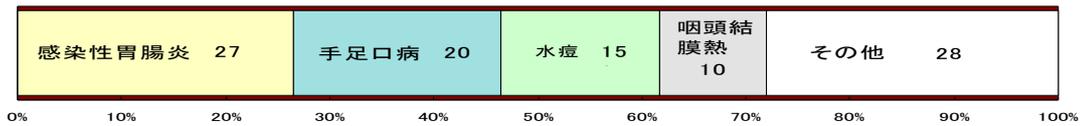
## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：なし

- 各疾患とも小幅な増減はあるが、全体的に落ち着いた状態で総数は減少傾向にある。
- 咽頭結膜熱(高幡:注意報→注意報, 安芸:注意報, 中央西:注意報→注意報, 幡多:注意報)は前々週並みに増加し、注意報値を越す地域が多くなった。
- 手足口病(中央東:注意報, 幡多:注意報→注意報)は全地域から報告があるが、減少に転じ、注意報値を越す地域も中央東と幡多のみとなった。
- ヘルパンギーナ(安芸:注意報→注意報)は横ばいで、引き続き安芸にやや多い。

上位疾患構成図

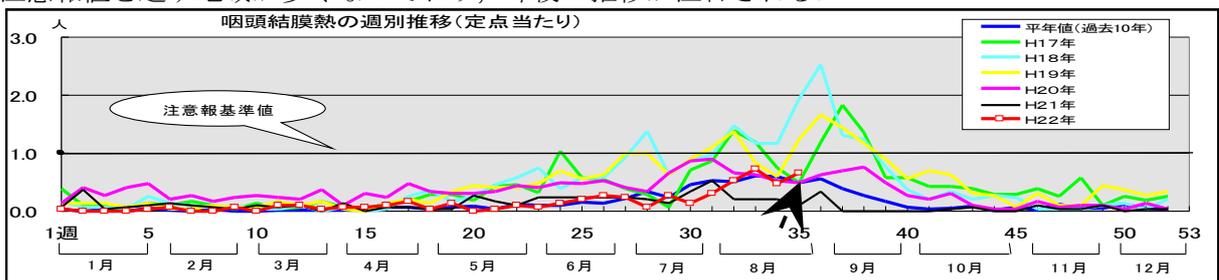


## 地域別感染症注意報・警報発生状況 第35報 (2010年8月30日～2010年9月5日)



### 咽頭結膜熱：今週0.67 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

流行期にあるが、報告数20名前後で推移しており、今年は大きな流行がみられてない。ただ、今週は注意報値を越す地域が多くなっており、今後の推移が注目される。



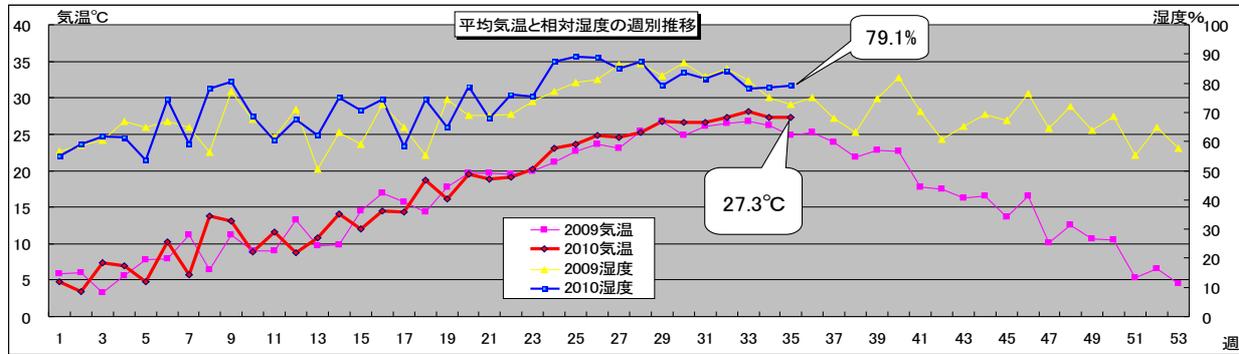
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
35	マイコプラズマ肺炎	3歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
35	マイコプラズマ肺炎	13歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 2例（73, 78歳女）《高知市》（今年107例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 6例（2, 2, 3, 4, 8歳男, 4歳女）  
ヘルペス性歯肉口内炎 3例（1, 6歳男, 1歳女）  
帯状疱疹 1例（8歳女）  
アデノウイルス感染症 1例（3歳男）

高幡：

《もりはた小児科》：マイコプラズマ肺炎 3例（3, 11歳男, 5歳女）

中央西：

《くぼたこどもクリニック》：突発性発疹の1例（11ヵ月女）は須崎市  
マイコプラズマ肺炎 1例（7歳男）

《土佐市民病院内科》：インフルエンザの1例（30歳代男）は迅速キットでA型陽性

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：帯状疱疹 1例（6歳女）  
カンピロバクター腸炎 1例（17歳女）  
アデノウイルス扁桃炎 3例（3, 4歳男, 4歳女）  
単純疱疹 2例（5, 6歳男）  
百日咳 1例（13歳男：東浜株40倍, 山口株320倍, DPT×4回, 馬路村  
在住, 第34週患者の兄）

《細木病院小児科》：Salmonella 07 1例（8ヵ月女）

中央東：

《早明浦病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（9歳女）はカンピロバクター腸炎, 下痢性大腸菌044  
アデノウイルス陽性 2例（9ヵ月, 5歳男）

全国情報第33週（8/16～8/22）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核304例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢7例、腸管出血性大腸菌感染症194例（有症者152例、うちHUS 5例、死亡1例）累積報告数：2,347例（有症者1,563例、うちHUS 54例、死亡3例）、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎3例、つつが虫病1例、デング熱9例、日本紅斑熱3例、マラリア3例、レジオネラ症11例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎1例B型、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群13例、ジアルジア症1例、梅毒3例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例、麻しん8例

（補）他に2010年第32週までに診断されたものの報告遅れとして、エキノコックス症1例、デング熱2例、日本紅斑熱2例、ライム病1例、急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例などの報告があった。

#### ◆腸管出血性大腸菌感染症（2010年8月25日現在）

2010年の腸管出血性大腸菌感染症報告数は、例年同様に第20週から増加し始めた。第22～24週にかけて、三重県の中学・高校における大規模な集団感染事例（189例）が発生したことで一時的に報告が急増した。その後いったん減少したが、第26週以降再び増加して150例を超える報告が続いており、第31週205例、第32週186例で、第33週は194例であった。本年第33週までの累積報告数2,347例は、2000年以降の各年同期間の累積報告数と比較して2001年、2008年に次いで3番目に多い報告数である（2000年1,872例、2001年3,033例、2002年2,175例、2003年1,385例、2004年2,194例、2005年2,069例、2006年2,090例、2007年2,343例、2008年2,369例、2009年1,995例）。

第33週に報告のあった194例は、患者（有症状者）が152例（78%）、無症状病原体保有者が42例（22%）であった。都道府県別にみると、東京都（22例）、富山県（20例）、栃木県と埼玉県（各17例）、神奈川県（15例）、福岡県（11例）からの報告が多かった。富山県では保育施設でO157 VT1・VT2による集団感染が発生し、これまでに園児とその家族から計18例が報告されている。また、栃木県では地域の祭りの参加者がO157 VT1・VT2に感染し、これまでに計10例の感染が報告されている。性別では男性93例、女性101例であり、年齢群別では0～9歳65例、20～29歳38例、10～19歳30例の順に多かった。腸管出血性大腸菌感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症者は5例（3歳、7歳、10代、20代、60代）おり、原因菌のO血清群と毒素（VT）型は4例がO157 VT1・VT2、1例がO不明VT1・VT2であった。また、大阪府から70代女性（O157 VT1・VT2）の死亡が1例報告された。

第1～33週の累積報告数2,347例についてみると、報告の多い都道府県は、三重県（281例）、東京都（200例）、福岡県（181例）、愛知県（165例）、大阪府（119例）であり、性別では男性1,113例、女性1,234例、年齢群別では0～9歳674例、10～19歳482例、20～29歳367例の順に多い。

推定または確定された感染源・感染経路として、肉の喫食が記載されていたのは336例（14%）であり、そのうち生肉または加熱不十分の肉を喫食していた者が164例（1歳2例、2歳4例、3歳6例、4歳2例、5～9歳32例、10～14歳13例、15歳以上105例）であった。

最近発生した上述の富山県、栃木県以外の集団感染として、第30～33週に岩手県の支援学校関連（O26 VT1）、第31～32週に佐賀県の保育施設関連（O103 VT1）、第31～33週に愛知県の保育施設関連（O26 VT1）などがあった。

HUS発症者は累計54例報告されており、性別では男性23例、女性31例で、年齢群別では0～4歳29例、5～9歳4例、10～14歳4例、15～64歳8例、65歳以上9例であった。死亡例はこれまでに2歳男性（O157 VT1・VT2、HUS発症）、70代女性（O157 VT1・VT2、HUS発症せず）、90代男性（O157 VT1・VT2、HUS発症せず）の3例が報告されている。

例年の報告状況から、発生ピーク時期を迎えていると考えられ、引き続き予防対策の徹底が必要である。食肉の十分な加熱処理などにより、食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが重要である。

（補）菌の検出状況については、<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-lj.html> をご参照ください。

#### 速報：◆2010年の高知県におけるエンテロウイルス71型の検出状況

2010年の高知県におけるエンテロウイルス71型（EV71）の検出状況を報告する。

検出方法については、患者検体からのEV71遺伝子検出と、培養細胞によるウイルス分離を併用した。患者検体からのEV71遺伝子検出については、谷脇らの方法<sup>1)</sup>によるエンテロウイルスの5' UTR領域に対するPCRを行い、陽性となったものについて、山崎らの方法<sup>2)</sup>で、EV71のVP4-2領域に対するPCRにより同定した。ウイルス分離では、Vero、LLC-MK2、FL、RD-18Sの4種類の細胞を用い、エンテロウイルスに特徴的なCPEを形成したものについて、愛媛県作製の抗EV71血清で中和試験を行った。これらのうち、手足口病患者検体3件、無菌性髄膜炎患者検体1件については、Nixらの方法<sup>3)</sup>によるVP1領域のsemi/nested PCRを行った後ダイレクトシーケンシにより塩基配列を解読し、301bpについて系統樹解析を行った。

EV71は3月1件、4月1件、5月30件、6月37件、7月18件、8月（22日現在）5件、計92件から検出された。陽性例の臨床診断名は手足口病79件、ヘルパンギーナ3件、無菌性髄膜炎3件等であった。手足口病患者検体からは、84.0%（搬入検体94件中79件）でEV71が検出されており、本県の手足口病の原因ウイルスは大部分がEV71であったことが示された。また、無菌性髄膜炎検体は13件搬入されたが、ウイルスを検出できたものは4件あり、うち3件をEV71が占めた。

EV71の遺伝子の系統樹解析の結果では、遺伝子型は4検体ともにC2型に分類され、これらの相同性は99.7～100%であった。

感染症発生動向調査において、2010年の高知県の定点当たりの手足口病患者は第17週で上昇し始め、第28週で13.33人とピークを迎えた。現在（第33週）では下降しているものの、医療圏によっては本県の注意報基準値（2.00人）を超過しているところもあり、いまだ注意を必要としている。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(34週)	高知県(35週末累計) H22/1/4~H22/9/5	全国(34週末累計) H22/1/4~H22/8/29
			中央東	高知市	中央西							
内科・小児科	インフルエンザ				1			1 ( 0.02)	2 ( 0.04)	119 ( 0.03)	2,549 ( 53.10)	224,210 ( 46.99)
小児科	咽頭結膜熱	3		5	4	3	5	20 ( 0.67)	14 ( 0.47)	875 ( 0.29)	156 ( 5.20)	24,201 ( 8.00)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	6	2			10 ( 0.33)	13 ( 0.43)	1,574 ( 0.52)	754 ( 25.13)	134,256 ( 44.35)
	感染性胃腸炎		6	35	6		5	52 ( 1.73)	76 ( 2.53)	9,013 ( 3.01)	7,264 ( 242.13)	805,186 ( 266.00)
	水痘	1	7	9	3	5	5	30 ( 1.00)	12 ( 0.40)	1,786 ( 0.60)	1,526 ( 50.87)	166,476 ( 55.00)
	手足口病	3	19	2	3	2	10	39 ( 1.30)	52 ( 1.73)	3,618 ( 1.21)	3,150 ( 105.00)	126,113 ( 41.66)
	伝染性紅斑		3	1				4 ( 0.13)	10 ( 0.33)	912 ( 0.30)	193 ( 6.43)	30,945 ( 10.22)
	突発性発疹		4	3	2	3	1	13 ( 0.43)	12 ( 0.40)	2,211 ( 0.74)	431 ( 14.37)	59,367 ( 19.61)
	百日咳			2				2 ( 0.07)	2 ( 0.07)	114 ( 0.04)	54 ( 1.80)	3,853 ( 1.27)
	ヘルパンギーナ	6	1	5	3	1	1	17 ( 0.57)	17 ( 0.57)	3,429 ( 1.14)	979 ( 32.63)	127,807 ( 42.22)
	流行性耳下腺炎		2				1	3 ( 0.10)	7 ( 0.23)	3,178 ( 1.06)	177 ( 5.90)	118,413 ( 39.12)
	RSウイルス感染症									262 ( 0.09)	760 ( 25.33)	46,617 ( 15.40)
	眼科	急性出血性結膜炎									22 ( 0.03)	2 ( 0.67)
流行性角結膜炎				1			1	2 ( 0.67)	2 ( 0.67)	548 ( 0.81)	56 ( 18.67)	13,433 ( 19.81)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)	1 ( 0.14)	9 ( 0.02)	11 ( 1.57)	309 ( 0.67)
	無菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)		22 ( 0.05)	15 ( 2.14)	549 ( 1.19)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 ( 0.14)		143 ( 0.31)	48 ( 6.86)	5,858 ( 12.68)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									18 ( 0.04)	21 ( 3.00)	392 ( 0.85)
計 (小児科定点当たり人数)		14 ( 7.00)	43 ( 6.14)	72 ( 6.18)	24 ( 7.87)	14 ( 7.00)	29 ( 5.60)	196 ( 6.35)				
前週 (小児科定点当たり人数)		20 ( 10.00)	42 ( 6.00)	63 ( 5.45)	27 ( 9.00)	14 ( 7.00)	54 ( 10.65)		220 ( 7.21)	27,853	18,146 ( 567.90)	1,888,408

注 ( ) は定点当たり人数。

定点当たり

第35週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(34週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ				0.20			0.02	0.04	0.03
小児科	咽頭結膜熱	1.50		0.45	1.33	1.50	1.00	0.67	0.47	0.29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.14	0.55	0.67			0.33	0.43	0.52
	感染性胃腸炎		0.86	3.18	2.00		1.00	1.73	2.53	3.01
	水痘	0.50	1.00	0.82	1.00	2.50	1.00	1.00	0.40	0.60
	手足口病	1.50	2.71	0.18	1.00	1.00	2.00	1.30	1.73	1.21
	伝染性紅斑		0.43	0.09				0.13	0.33	0.30
	突発性発疹		0.57	0.27	0.67	1.50	0.20	0.43	0.40	0.74
	百日咳			0.18				0.07	0.07	0.04
	ヘルパンギーナ	3.00	0.14	0.45	1.00	0.50	0.20	0.57	0.57	1.14
	流行性耳下腺炎		0.29				0.20	0.10	0.23	1.06
	RSウイルス感染症									0.09
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00			1.00	0.67	0.67	0.81
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14	0.14	0.02
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.05
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14		0.31
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.04
計 (小児科定点当たり人数)		7.00	6.14	6.18	7.87	7.00	5.60	6.35		
前週 (小児科定点当たり人数)		10.00	6.00	5.45	9.00	7.00	10.65		7.21	

## 2010年週報推移(定点当たり)

